

新春対談

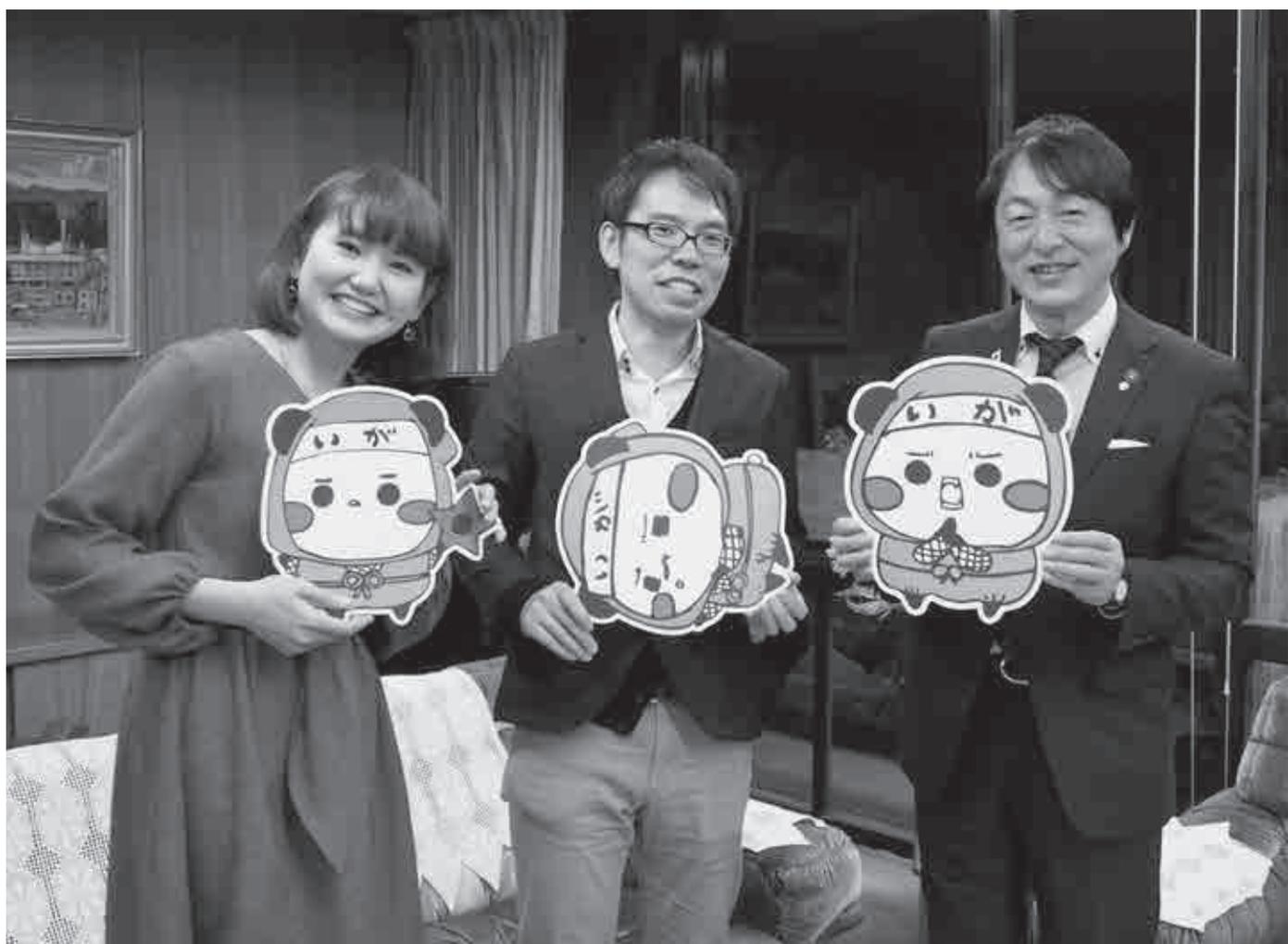
— 移住者と市長が語る、伊賀市の魅力 —

# 移住者

# 市長

「伊賀流空き家バンク」物件第1号成約者  
久保 孝之さん・千晴さん

伊賀市長  
岡本 栄



◀イラストレーターとして活動する千晴さんが、自作のキャラクターに忍者衣装を着せたパネルを製作してくれました。

新年明けましておめでとうございます。今回の特集は、新春企画として、伊賀市への移住者と岡本市長の対談をお届けします。

移住者を代表してお越しいただいたのは、市が空き家を紹介する伊賀流空き家バンクを利用し、物件の第1号成約者として平成28年11月に愛知県岡崎市から伊賀市伊勢路へ移住された久保さんご夫妻。

対談では、移住のきっかけや移住者から見た伊賀市の魅力、伊賀市の将来のありかたなどを語っていただきました。（本文中敬称略）



**移住の決め手は  
伊賀の、人の良さでした**

**市長** 初めまして。本日はよろしくお願ひします。

では、さっそくお聞きしたいんですが、どうして伊賀市に移住しようと思ったんですか。

**孝之** もともと田舎に住みたいという思いがあって、田舎暮らしについていろいろ調べていたんです。

**千晴** 岡崎市に住んでいた頃、よく2人で図書館に行って田舎暮らしの専門雑誌を読んでいた。その本の懸賞で、伊賀市の高尾にある古民家の宿泊券が当たる、というものを偶然見つけたんです。そこ

になんとなく応募してみたら当選しちゃって。

それで、その宿泊券をきっかけに、初めて伊賀市に来たんです。

**市長** そうだったんですか。そのとき実際に来てみて、伊賀市の印象はどうでしたか。

**千晴** めっちゃよかったです。

2日間、高尾の古民家でお世話になったんですが、それがもう、すごく楽しくて。

**孝之** 本当に楽しかったです。

いい田舎、という印象でしたね。自然も最高で、まさに自分たちがずっと思い描いていた田舎だったんです。

**千晴** そのときにお世話になったり交流した方の「人の良さ」に惹かれたのが伊賀市への移住を決めた一番の理由になったと思います。2人ともが、「これはもう、伊賀市って絶対にいいところだ！」と確信したんです。

**市長** たまたま応募して当たった宿泊券が、お2人にとってすてきな出会いになったんですね。

**孝之** はい。お試して伊賀市での暮らしを体験できたような感じで、これがすごくよかったです。



の人に紹介しているんです。

**孝之** まさにそうですよね。ぴったりな表現だと思います。

**市長** ありがとうございます。

そうして、お2人は愛知県から伊賀市に移住され、空き家バンクを利用した移住者の第1号となったわけですね。

**孝之** そうなんです。本当に偶然ですが、何もかもたまたまタイミングが合ったみたいで。

**市長** 伊賀市の空き家バンクでは、お2人に続いて今では23件の成約をいただいているんですよ。本当にありがたいことですね。



**望んでいた田舎暮らしを  
存分に満喫しています**

**市長** 伊賀市に移住されて1年ほど経ったみたいですが、伊勢路での暮らしはいかがですか。

**孝之** 仕事は大阪まで電車で行っているのですが、遠いことは遠いんですが、でも青山町駅から始発で毎日座れますし、全く問題はないです。

**市長** 伊賀市って山の中で交通が不便だと思われがちですが、住んでみると意外と便利なんですよ。

**孝之** そうですよ。

あとは、近所の方がいつもごく親切にしてください。毎日のように採れたての野菜をたくさんいただけるんです。こんなに優しくフレンドリーに接していただいているなんて思っていませんでした。

**千晴** 知らない土地から来た私たちをこんなにすんなり受け入れてくれるなんて、すごくびっくりです。本当にありがたいです。

**市長** いい地域に巡り合っていたみたいですよ。

市としても、市外から来てくださる方をしっかりと迎えていただいている地域の方に感謝しなければならぬところですよ。



**孝之** 実際に暮らしてみると、伊賀市の魅力をいろいろなことを通じて実感しています。

田舎の自然が感じられて、人も良くて、生活もしやすく。本当に、自分たちの求めていた田舎暮らしに出会えました。

**市長** 気に入っていただき、ありがとうございます。

ところで、休みの日はどんなことをして過ごされているんですか。

**孝之** 実は、家の裏庭がすごく楽しくて、基本的に家で過ごしていますね。

休みの日は裏庭でたき火をして朝ごはんを作ったりしているんですが、枝を拾ってくる場所から始めて、火をおこして、ホットケーキとかを焼いて食べています。

あとは、小規模ながら家庭菜園

もしていて、トマトやきゅうりなども裏庭で大切に育てています。

**市長** それは意外な休日の過ごし方ですね。田舎暮らしを存分に楽しんでもらっているみたいで何よりです。

ちなみに、お2人はもうこれからずっと伊賀市にいてくれるのでしょうか。

**千晴** もちろんです。伊賀市よりいい場所を探すことはできないなと思うぐらい、ここでの暮らしに2人とも満足しています。

**市長** 本当ですか、それはうれしいですね。とてもすてきな言葉をどうもありがとうございます。



◀料理や家庭菜園など、裏庭を活用して田舎暮らしを楽しむ2人の様子。

**空き家がたくさんあるのがもったいない**

**市長** お2人は、伊賀市のごことがうなればもっといいまちになるのにな、と思うところはありますか。

**千晴** 移住者として少し気になることは、正直あります。

**市長** そこ、大事なところですね。ぜひ教えてください。

**千晴** 私たちの生活が困るとかそういうことではないんですが、やっぱり空き家はほかにも何件あります。それを見ていて、まだまだ提供されていない空き家がたくさんあるのかな、ということも感じています。



んあるのかな、ということも感じています。

**市長** もったいないなあという感じですかね。

**千晴** そうですね。これから生活していく者としては、新しい人がどんどん入ってきてほしいなという気持ちがあって、残ってる空き家の情報をもっと外に出てきて、それを見つけて新しい人が入ってきてくれるようになればいいなと思いますね。

**市長** 移住された方ならではの意見ですね。移住者は年々増えてきていますが、それに合わせた空き家の提供もこれからもっと進めなければいけませんね。

**千晴** ぜひ、よろしくお願いしたいと思います。

**よりよいまちづくりを期待しています**

**孝之** 市長さんは、よりよいまちをめざして、今年はどうなことに取り組んでいく予定ですか。

**市長** 伊賀市は、若い人たちが安心して暮らせて、子どもたちがのびのびと過ごせるようなまちをめ

ざしています。

今年の4月からは、6歳までの子どもの医療費に関しては、窓口にお金を持っていかなくていいような「医療費の窓口無料化」をやりたいと思っています。

また、今まで忍者をほとんどアピールしてきましたが、果たして忍者と伊賀市がちゃんと結びついているのかという不安があるので、そこをもっとしっかり知らせていかなければと思っています。

あとはやっぱり、伊賀市に生まれてよかった、伊賀市に住んでよかったと皆さんが誇りに思えるようなまちにしていきたいんです。

そのためにはいろいろな事業を進めていかなければならないんですが、やっぱり行政だけじゃなく



で、地域の皆さんや、企業、団体、みんなが力を合わせなければなかなか成し得ない時代になってきましたから、それぞれのポジションでみんなが持ち味を生かして頑張ってもらいたいと思っています。

どんなことにおいても、みんなが満足できるまちにしていかないとけないなと思いますね。

**孝之** そうですね。市長さん、期待しています。今年も頑張ってくださいね。

**市長** これからも一緒に、伊賀市をもっと魅力あるまちにしていきたいと思います。

本日はお越しいただきありがとうございました。